九州横断道路とは

その計画と現況

九州横断道路は、別府から阿蘇、熊本、三角、雲仙を経て長崎にいたる国際観光及び産業開発道路であり、また九州全体の道路網からいえば大きい幹線でもあるわけです。

このうち熊本、大分両県は阿蘇郡一の宮町より大分県湯布院町間が現在未開通であるためこの区間を貫通しさらに別府阿蘇を直結しようというものです。

急務な道路開発

二級国道熊本大分線から一の宮町で分岐し西手野に通ずる道路は巾は狭くても一応バスの通行は可能です。しかし外輪山を登り瀬の本高原を経て、さらに大分県に入り、九重山、小田ノ池、水分峠、湯布院に至るまでには小道があるだけで自動車の運行は全く不可能な状態です。一方この沿線は外輪山上からの阿蘇山の展望が素晴しく、さらに雄大なる瀬の本高原、九重山猟師獄、飯田高原、小田ノ池、水分峠よりの湯布院盆地の俯瞰という具合に旅する人の目を楽しませています。

いよいよ具体化へ

この道路の建設は初め熊本、大分両県が昭和三十年六月建設省に有料道路事業としてこれを要望した事に始まつています。続いて昭和三十一年五月日本道路公団福岡支社が設置され、この道路の建設計画がいよいよ具体化することになりました。福岡支社は昭和三十一年度より本年度迄建設計画及び経済調査を行い現在その全体計画を完了しています。

その計画のあらましは、

(1)**区間**　自熊本県一の宮町大字古城　至大分県湯布院町大字乙丸

(2)**延長**　六二、五粁

(3)アスファルト舗装全巾員七、〇米

(4)**建設費**　二十八億円

この道路ができれば

この道路ができれば、別府阿蘇山間は僅か二時間の距離に短縮されます。そしてこの沿道の風光の素晴しさと快適なドライブによりその観光価値は高まり、熊本県を訪ねる観光客もさらに増大することはいうまでもないことです。

又この沿線にひろがる牧野は酪農振興計画がたてられ、将来乳牛一万頭の導入も計画されているので輸送面の解決はこの振興計画に活を入れることともなるようです。

なおこの沿線地域には大森林地帯をひかえその蓄積量は四千万石が見込まれ、この道路による森林資源の開発は期して待つべきものがあります。

そのほか硫黄、硫化鉛等の鉱物資源も豊富であり、又沿線畑地を蔬菜の高冷地栽培で高度に利用する等この地域の産業開発に寄与する所が非常に大きいものと(道路課)みられています。

(前頁より)

何れにしても、仲買人たちの実用的な値のつけどころが、そのような事実として出てくるためでしよう。

飼主の表情を時折見ていますと、同じ二ツ鐘でも競落された最高値に対して、ほつと胸を撫で下ろす人がいるかと思えば、そうではなくて、不承々々と云つた人も居り、全く話にならないつて云う人は首を左右に振つてすぐすごと引返すわけで、その後を追うように鳴る一ツ鐘はちようどNHKのど自慢の鐘のように、ひとしお寂しいように感じられます。

次第に場内が仲買人たちの昂奮に包まれてきますと、怒声とも罵声ともつかぬ競合いの言葉が大きなゼスチユアとなつて現れ出します。

「仲買人の中には、四国を始め北九州、東北、関東からはるばるとやつて来ますが、中には少々悪質なボス的存在の者も一人や二人居りましてネ、彼等が欲しいと狙つた牛に対して一定の値段をつけたがさいご、他の仲買人たちに向つてそれ以上には絶対に競らせないという睨みを利かせてしまうんですよ。つまり、あとが恐いんだぞという暴力を無言で暗示していることなんです。とにかく法律が現在のところ、そのような事態を取締まるようにはできていないために、実は弱ることもあるんです」

と傍にいた阿蘇事務所の寺本係長は云う。これは他の仲買人に対しては無論のことではあるが、さらに飼主に対しても直接ひゞく大きな問題とも云えましよう。

このようなことが一日も早く解消され、できるだけの善後策によつて公正な市場運営がスムーズに行われるべきことを痛感しながら、ふと窓口会計の方へ眼をやりますと、札束を鮮やかな手つきで勘定していた女事務員が、柵の外で待つ数人のお百姓さんの一人へ、売値の半額を現金で渡すところ。お百姓さんつまり売主は、小牛を買いうけた仲買人と直接現金を取引するのではなく、農協の一時立替金によつてその半額を貰い受けるのだそうです。仲買人たちは、この市で買い求めた個々の総計算高によつて、一括して現金をその窓口を通し農協へ払い込むのだそうで、お百姓さんは残りの半額を後日受取ることになつているのです。この半額渡しということが、盗難の事前防止という大きな役割を果すばかりではなく、残された半額を預金へと奨めるにも良策であると考えられます。

ふたたび屋外に出てみますと、すでに他人手に渡つた子牛の背中あたりに、大きな輪の中に「熊本」と記した焼印が次々と押されてゆき、中には仲買人自らが赤い毛なみに鋏を入れながら目印をつけています。買手のついた子牛は親牛と一緒に畜舎と反対側の柵につながれて、畜舎の中でセリ市の出番を待つ親牛子牛と対峙しながら、相も変らず啼きつゞけています。

この子牛たちは、やがて貨車の中でも啼きつゞけ、緑草を食んで東北、関東、或いは四国へと汽車の旅をつゞけることでしよう。

そして見知らぬ土地での農家で十七、八ヶ月ほど肥育を経ますと、ふたたび仲買人から買い戻されて肉用となるのもあり、或は役牛としてますます農家の手だすけに〃肥後の赤牛〃の真価を発揮することにもなりましよう。

組合の事務室では、さつそく貨車の手配を問いあわせる仲買人たちで電話のベルが鳴り、いつまでも慌立しい気配がつゞいていますが、それに較べてのどかで静かなのは、赤牛の啼く声であり、壮大な高岳のまつ白な姿でありました。

(広報課)

大切な入学前の子供の健康

親と子の夢だが

小学校にあがる前の子供―いわゆる就学前児童―の健康をいかに保つかの問題については、従来あまり一般の関心がなかつたように思われます。いよいよ今年から学校だということになると、親はなんとか将来性のある小学校へ入れたいと考えます。そして子供は子供で無心に就学前の準備に酔いしれるといつた恰好です。これはこれなりにほほえましい親と子供の夢ではあるけれど、ふり返つて考えれば、この時期ほど子供の健康に気をつけなければならない時期はないと思われます。

大切な幼児期

これから先十数年に及ぶ学校生活を通じて、なによりも大切なことは健康です。どんなに秀才であつても、健康に恵まれない学園生活を送り結局社会における敗残者となるような例は私達の周囲によく見うけられます。学校生活の健康の基礎は小学校時代であり、小学校時代の健康は幼児期に形ずくられなければなりません。したがつて、精神的にも肉体的にも、幼児期のエポックをなす就学という事実に直面して、子供が健康であることこそ、世のすべての親達の祈りでなければならないのです。

これだけは特に大切

そこで、入学前に是非とも大切な健康診断についてその際特に注意すべき点をあげて見ることにしましよう。

一、視力の正否

二、色神の有無

いわゆる色盲の検査ですが、これは子供の将来の職業にも関係しますので重要です。

三、聴　力

オージオメーター等の機械を用いてその障害の有無、程度を知らべておく必要があります。

四、眼　疾

常識的にはトラホームが問題になりますが、その他伝染性疾患に特に注意すること。

五、耳疾、鼻及び咽喉の疾患

中耳炎、蓄膿症、アデノイド、扁桃腺肥大に注意すること。これらはかなり学業に影響する疾患ですから、就学前に適当に処置しておくことが必要です。

六、皮膚疾患

白癬、癜癬などの伝染性皮膚疾患の有無に注意すると共に、湿疹などについてもその治療等について十分な指導をしておくことです。

七、歯の疾病及び異常

う歯に注意し、治療をすすめておくとともに、不正咬合についても専門的な指導が必要です。

八、結核の有無

子供の結核は春になつて発見される場合が多いといわれていますので、就学前に精密な検査を行い、学校にはいつてから行われる健康診断で始めて結核が発見されるようなことがないよう注意しなければなりません。

結核による長期欠席児童が多い現状から、特に就学前児童に対する結核検診は重視する必要があります。

九、寄生虫卵の有無

児童の蛔虫保有率はかなり高率で、あらゆる点で児童の健康を阻害しているので、就学前においても特に蛔虫の駆除に気を付けなければなりません。

十、知能検査

身体的異常の発見と共に、精神機能の発達検査、知能検査に重点をおき、精神薄弱及びその他の精神障害の発見につとめることも極めて重要です。

子供の健康手帳

以上就学前児童の健康診断について述べましたが、将来の問題として、すべての児童が乳幼児期から学令期を通じて適正な健康管理のもとにおかれることが必要となつてきます。そしてその意味で、現在用いられている母子手帳が、そのまま子供の健康手帳のような形で就学時にひきつがれていく体制が望ましくなつてくるのです。

(衛生部)

成人病とは?

人間の肉体的能力の最盛期は20～40才知的能力は30～50才、つまり心身共に人生の最高頂は、普通40才頃にあるといわれます。

「成人病」とは比較的新しい言葉で、「40才以上の人に多い高血圧、ガン、心臓病の三つをいう」ともいわれています。

40才から50才といえば、社会的には夫々の面で熟練者であり、又内には一家の済経を支え、子弟の教育を完成させようとしている最も大切な時ですが、結核等の死亡率が低下して平均寿命は大分長くなつたのに、ガン、心臓病、高血圧といつた病気は、40才頃から急に多くなり、しかもその傾向は次第に強くなつているので、最近、特に関心が高まつてきているようです。

(衛生部)